

東海地区まちづくり懇談会（概要）

日 時	平成22年9月30日（木） 19時00分～20時40分
会 場	東海コミュニティセンター
参 加 者	47人
内 容	<p>1 東海地区区長会会長から地区の課題等について説明・提言</p> <p>【山口会長】</p> <p>①台風14号（平成17年）により内水被害を受けた川島・追内地区などについては、激甚災害対策特別緊急事業の内水対策事業で河川に排水ポンプが設置された。檜山・大門・栗野名・柚の木田・大武・牧・二ツ島地区についても同じ被害を受ける可能性があるため、友内川および大武川水門にも排水ポンプの設置を要望する。</p> <p>②川島地区は近年新築住宅が増えている。また、公共下水道がないため、汚水や生活廃水が農業用水路を經由して北川に流れ込んで衛生上の問題もある。川島処理分区の公共下水道の整備促進を要望する。</p> <p>③17年度から着工した稲田川排水路改修工事が22年度末には完成予定で、道幅も広くなり、農道の冠水もなくなった。その反面、川幅・水深が増大し、流れが遅くなった稲田川排水路に生活廃水が流れ込んで、友内川の水質悪化が懸念されている。稲田川排水路流域の公共下水道の早期整備を要望する。</p> <p>《市 長》</p> <p>① 毎年、全国各地で内水被害が頻発していて、国は河川事業の限られた予算の中で、事業の優先順位をつけている。「災害を未然に防ぐ」ことは大切だが、国土交通省の排水ポンプ場設置の採択基準として、どうしても、甚大な被害を受けた地域が優先となってくる。排水ポンプ設置以外にも、たとえば河川の開口部を広げるとか、水位を下げる方法がないのかについて、今後も国と協議検討していきたい。</p> <p>② 東海地区で、現在、公共下水道整備事業の認可を受けているのは桜ヶ丘、大武、稲葉崎の3処理分区で、整備進捗率は21年度末で68%となっている。まず、この3処理分区を完成させなければならない。公共下水道整備事業は、線整備ではなくて、全体的に計画して面整備で行うのが本来だが、国の厳しい財政状況の中、面整備が困難になってきている。未整備の川島処理分区については、第5次延岡市長期総合計画の後期基本計画に入れていくのは困難だと考えている。</p> <p>③ 確かに生活廃水が稲田川排水路に流入することによる水質の悪化はあると考えているが、今説明した通り、厳しい財政状況の中、新たな公共下水道整備事業の認可、実施は困難となっている。公共下水道の整備が完了している地区の水洗化率の向上など、できる方法を検討しながら水質改善に努めていきたい。</p>

2 意見交換

【意見】

- ①口蹄疫の侵入防止活動には多くの市民ボランティアが参加したが、旭化成 OB 会も、延岡在住の OB ボランティア 4,500 人のうち 300 人が災害ボランティアに登録していて、口蹄疫の防止活動に積極的に参加した。しかし、市役所 OB は個人としては参加していたが、団体としては参加していなかった。市長からも、市役所 OB へボランティア活動の組織化を呼びかけてもらえないか。
- ②今年の夏は、鹿川溪谷、岩熊井堰などで水難事故が相次いだ。こどもの「かけこみ 110 番」システムがあるが、水難事故防止対策としても、たとえば、外回りをしている郵便配達員や宅配員にお願いして、危険箇所を遊泳している子どもたち等を見かけたら、警察、消防等に通報して、警察、消防が現場に行き注意するといったシステムはできないか。
- ③国土交通省の河川情報モニターで「川しるべ委員会」というのを作って、現在ピクトグラム（＝情報や注意を示すための絵文字などの視覚記号）化活動をしている。市も、このピクトグラム化活動を参考に、水難事故防止対策として、小さな子どもたちが一目で「遊泳禁止箇所」だとわかるピクトグラム標識を設置してほしい。

《市長》

- ①まさに、多くの市民ボランティアに助けられ、本市への口蹄疫の侵入を食い止めることができた。心から感謝している。市役所 OB も、個人としては、口蹄疫の際のボランティアを含めさまざまなボランティア活動に参加しているが、旭化成 OB 会のように組織的に連携した活動をするまでには至っていない。市役所 OB に働きかけていきたい。
- ②相次いだ水難事故を受けて、事故の検証や、命を最優先とした防止対策を議論しているところだ。水難事故の起きた鹿川溪谷は、緊急措置として、今シーズンは遊泳禁止とした。しかし、鹿川溪谷は、上鹿川地区唯一の観光資源でもある。人の命の大切さと、自然相手の自己責任の問題、観光資源など総合的な面から、来シーズン以降もずっと遊泳禁止措置とするのかの是非なども議論している。ご提案の通報システムづくりは、今後の議論の中で、総合的に検討していきたい。
- ③ピクトグラム化活動については承知していないので、今夜のご提案を機に今後の水難事故防止対策の議論の中で検討していきたい。

【意見】

- ①市長の掲げる「新生のべおかプロジェクト」には「教育振興プロジェクト」が組み込まれているが、教育振興などの点から提案したい。たとえば、平成 20 年に県北調査展が開催されて、その報告書には、旧石器時代の出羽（いづるは）洞穴遺跡（日之影町見立）や、高速道路建設の関係で行われた北方町の遺跡調査結果も掲載されていた。また、県埋蔵文化センターによる集石遺構などの発掘調査報告会を見に行ったこともあるが、発掘現場は、その後は再び埋め戻されるとのことだった。発掘現場でじかに調査結果を聞いて、

たいへん勉強になった。このような研究成果や資料を学校教育の中に活かすことはできないか。

- ②深層崩壊（＝表土層だけでなく、深層の風化した岩盤も崩壊する現象）の調査に、延岡ではまだ取り組んでいないと思うが、調査に取り組んでほしい。

《市 長》

- ①ふるさとの歴史に関心を持たれ、発掘現場に足を運ばれ、研究成果を勉強しておられることは素晴らしいことだ。私も、学校でのふるさと教育の中などで活用できないかと思う。発掘調査や報告書は専門的なものになるが、学校教育等の中で活用できないかというご提案があったことを教育委員会に伝えていきたい。
- ②県全体としては、ハザードマップを作製しているが、深層崩壊については、たとえ調査しても、雨量や場所などから、それほど簡単に予測できないのではないかと考えている。

【意 見】

東海地区の社会基盤整備は、他の地区よりも遅れているように感じている。道路整備についても、以前から東環状線建設の計画があったと思うが、現在どうなっているのか伺いたい。

《市 長》

東環状線は、産業道路として、渋滞緩和の面を考えたの構想だった。まだ国道10号延岡道路がなかった頃の話だ。現在は、無料化に向けての実験も行われ、渋滞も解消されてきている。また、西環状線の建設も、大門工区等がだいぶ進んでいて、(仮称)岡富橋も23年度には完成する。この方面が開通すると、さらに渋滞緩和につながる。蛇谷方面にも農道が整備された。このような道路ネットワーク整備の中で、それでもなお、東環状線が必要なのかは、今後の状況を見てからの判断になる。

【意 見】

第5次延岡市長期総合計画の基本目標の5番目に「豊かな自然と安全で快適な暮らしを守る環境づくり」が掲げられているが、林地残材等を活用した燃料確保について提起したい。海岸に漂着している流木や、林道わき道の作業林道等に放置したままになっている林地残材は、無料の燃料だ。もったいない。北方町、北浦町、北川町のクリーンセンターの活用していない焼却炉を活用して燃やして、お湯を沸かしたらどうか。そのお湯を、タンクローリーで、入浴サービスしているデイサービスなどの福祉施設に運搬する新たなサービスができないだろうか。このサービスができれば、新たな雇用も生まれると思うのだが。

《市 長》

林地残材の活用の例としては、運搬しても、お金にならなかった林地残材を集積して電気に換える旭化成のバイオマス発電がある。これは事業として

成り立っていくだろうし、雇用拡大につながればと期待しているところだ。只今のご提案は、林地残材を燃料として活用してお湯を沸かしたらどうだろうかとのユニークなアイデアだ。しかし、実際には、それをするとすると、元3町のクリーンセンター設備の全面やり変えが必要になって、投資費用が相当出てくると思う。実現性があるのか、担当課にご提案内容を伝えたい。

【意見】

大門町に住む者だが、現在、西環状線の須崎中川原線の大門町の道路工事が行われていて、用地買収も行われている。この道路工事に関連して要望したい。私の家の近辺も用地買収が終わって、JR日豊線のガードのそばの私の家だけがぽつんと残り、「道路建設に協力していない」ような誤解を受けていて、迷惑している。市民は、どのような形で道路が通って、JR日豊線のガードがどこに設置されるのかなどほとんど知らない状態である。（ガードが現在ある位置のままだと思っている市民もいる。）祝子橋が完成したのを機に、ガードや周辺道路の完成図等を広報などにより詳しく掲載して、市民に周知してほしい。

《市長》

ご迷惑をおかけして、たいへん申し訳ない。広報のべおかやケーブルテレビなどを活用し、道路や周辺の完成予想図等で市民に周知を図りたい。

※ この件に関しては、広報のべおか平成22年3月号11頁に「大門町で道路工事に着手」と題して、地図やイメージ図入りで掲載しているが、まちづくり懇談会での要望を受けて、担当の都市計画課が現地赶赴いて、意見を述べられた方と、誤解を解消する有効な方策について協議中である。

以 上